

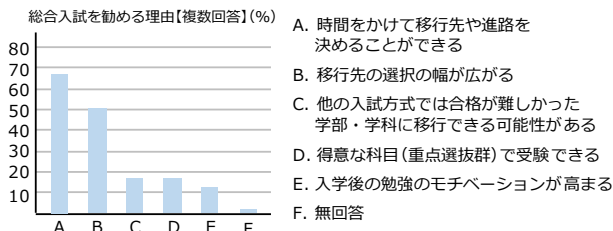


卒業年次アンケートに見る総合入試①

2013年に入学し、昨年度末に本学を卒業した学生達の目に見えてくる情報があります。特に就職についての情報はなかなか高校生には分からないので、そういったことを踏まえて学部・学科を決められる総合入試は悪くない制度だと思います。<業・学部別>

※ 2017年1月12日～2月28日実施

【後輩から大学受験に関する相談を受けた場合、本学総合入試を勧めるか】という設問に対し、“勧める” “どちらかと言えば勧める” と回答した学生の中で、その理由を選択する設問(複数回答可)の回答結果を下図に示します。総合入試の利点として、色々な選択肢の中から時間をかけて移行先を決められるということが広く認識されていることが分かります。



自由記述欄にもこの事を強調する回答が多く見られました。「高校までと大学の教育ではレベルや手法の違いが大きいので、大学の環境に慣れた上で自身の興味のある学問をしっかりと考える時間はとても大切だと思った。<経・学部別>」
「僕は高校時代、大学の学部とは何か、どんな学問が世の中にあるのか全く分かっていませんでした。そんな中、一年かけて自分の勉強したいことを見つける総合入試制度は自分にあったシステムだと思い、北大を受けました。結果的に1年次の教養で興味の幅が広がりとても良かったと思っています。<農・総合>」
「各学部の要求される勉強量、就職の強さなど、大学に入学した後

に見えてくる情報があります。特に就職についての情報はなかなか高校生には分からないので、そういったことを踏まえて学部・学科を決められる総合入試は悪くない制度だと思います。<業・学部別>

交流関係の広がりについて言及する記述も見られました：「共通の講座を受けることで移行後も学部を超えたつながりを持つことが出来た。<工・総合>」
「1年生の時に他学部の人との交流があり、その後学部が離れても分野の異なる人達と交流できることが魅力。それにより、広い視野で将来について考えることが出来る。<工・総合>」

また、入試のための勉強と大学における勉強の違いから、総合入試を勧めるという回答もありました：

「入試を勝ち抜くための学力と大学入学後の学力は求められるものや性質が違う。前者は瞬発力や要領の良さであり、後者は時間がかかってもいいから問題を多角的にじっくりと考察して解決することである。入試問題を素早く処理できなくても、大学での着実な勉強が向いている人もいます。<工・総合>」
「高校時代にあまり勉強ができなくても、大学の勉強に向いている人がいて、そういう人は好きな学部に入りやすいかもしれない。<獣・学部別>」

様々な事を知った上で移行先を決められる点や交友関係の広がりについては2年次アンケートでも同様に言及されていましたが(⇒Vol.6「2年次アンケートに見る学部移行」)、流石は卒業生、文章の重みが増し、内容に説得力が感じられます。高校と大学における学びの違いへの言及にも成長を感じさせられます。

以上のように総合入試の利点が挙げられた一方で、苦言を呈する声もありました。今回は総合入試を勧めない理由についての回答結果をお伝えします。

(浅野圭祐)

注) 総合は総合入試、学部別は学部別入試による入学者を指す

スタッフの心象 第14回「パソコン事始め」

このコーナーではLSOに寄せられる進路・修学・学習相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。



LSOには日々様々な相談が寄せられます。昨年度からパソコンに関する質問・相談が増えてきました。学生は在学中、北海道大学が包括契約しているセキュリティソフトやマイクロソフトのOfficeを自身の端末にインストールして利用することができます。利用方法についてはELMS上で公開されている手引書に従って作業を行えば良いようになっていますが、うまくいかないという学生も少なくないようです。

LSOでも基本的に手引書に沿って作業を手伝うという対応を行っています。この種の質問・相談には大きく2つのタイプがあると感じました。1つ目は手引書を読む前にまず質問に来たというタイプで、手引書に従って操作してみる、インターネットで解決法を探してみるなどとすると、すぐに解決することが多いです。もう1つは、手引書を読んで作業したがうまくいかず、困って質問に来たというタイプです。この場合の対応は少し難しいことが多

いのですが、長時間の対応の末にわかったトラブル原因が、予め手引書を見て調べてきていたMACアドレスが別のデバイスのものであった、という事例を良く見かけました。

この種の質問・相談は4月・5月に集中しています。入学後かなり早い時期から実践的にパソコンで作業しなければならない場面が増えているのかもしれませんが。買ったばかりのパソコンを手で課題に追われる中で質問に来ていた学生も、使い慣れてくるに従って自分で解決法を探せるようになるのでしょう。パソコンは大学生生活や研究活動、あるいは仕事においてますます便利で重要なツールとなっています。単に「課題をこなすための道具」に留めるのではなく、ルールを守りながら様々な可能性に挑戦して欲しいと思います。

(立花優)

「ピンチをチャンスに変えよう」

アカデミック・アドバイザー
理学研究院化学部門 教授

喜多村 昇



私は1972年に東京都立大学(現・首都大学東京)の工学部工業化学科に入学しました。都立高校2年生の時に父が転勤したため、以降、自炊しながらの高校生活になりました。また、バレーボール部に所属していましたが、下級生の部員が少なく、元主将としての責任として高校3年の秋頃まで部活を続けることになり、受験勉強も中途半端にならざるを得ませんでした(言い訳?)。そのような状況で、何とか現役合格したいとの思いで選んだのが都立大です。さらに、当時の国立大学の学費は3万6千円/年でしたが、都立大は1万2千円/年で、都民の入学金は割安の1万5千円という特権もありました。結局、都立大4年間の学費6万3千円で済ますことができ、多少は親孝行ができたと思っています。まとめると、都立大を選んだ理由は根拠薄弱です。

工業化学科を選んだのも根拠薄弱でした。石油化学工業が日本経済を支える産業の一つであった時代で、何故か旭化成のTVコマーシャルを眩しく感じ、将来はプラスチックや化学繊維等の石油化学製品を造る高分子合成の仕事

に関わりたいと思い、工業化学科を選びました。しかし、工業化学科には高分子合成の研究室が無いことを入学後に知ることになり、これが最初のピンチ(こんなはずじゃなかった!)になりました。再受験する勇気もなく、ダラダラと専門授業を受け、部活のバレーボールに集中する学生生活を送っていました。そんな中、3年生の時に英語の化学論文を読み、その内容を授業で発表する演習科目がありました。その時に「当たった」論文が、その後、私の専門となる「光化学」に関するものでした。格好悪い発表するのも癪に障るので、「有機光化学反応論」という本を買って勉強することにしました。この本がきっかけとなり光化学に興味をもち、光化学分野での卒業研究を行うことになりました。さらに、卒論研究中に東京工業大学に関連研究の先端研究を行っている先生が居ることを知り、大学院は東工大に進むことにしました。東工大大学院に進学後に分かった事は、研究室は光化学の研究を行っているものの、「高分子合成」が専門の研究室で、これが2回目の「こんなはずでは」になりました。それなら光化

学をもっと勉強し、指導教員(生涯忘れられない恩師です)をびっくりさせようと思い、必死に勉強したことを思い出します。これが認められたのか、修士修了と同時に研究室の助手に採用されました。東工大で助手を約10年、東工大を辞職して科学技術振興機構の光化学に関する5年間の研究プロジェクトを経て、24年前に北大理学部化学科の教授になりました。

今、学部・大学院で光化学に関する講義を行っていることを考えると、大学3年で出会った光化学の本が全ての契機(チャンス)だったことになります。人生にとって何がチャンスになるかは、その時には分からないものです。何事も、その時にベストを尽くすことが大事だなと、つくづく思います。皆さんは北大卒という履歴が良くも悪くも一生ついてまわります。胸をはって北大卒と言えるよう、何事にもベストを尽くし、悔いのない学生生活を送られる事を期待しています。

メンバー紹介

東京大学にて研究員をされていた吉安徹さんが新メンバーに加わりました。数学が専門ということで、最近の数学の質問の増加を引き起こしている一因になっていると思われまます。よろしくご挨拶致します。

LSOメンバー			スタッフ(特定専門職員)		
室長			清水 将英	理学院修了	数理物理学
細川 敏幸	高等教育推進機構 教授	高等教育	浅賀 圭祐	理学院修了	素粒子物理学
アカデミック・アドバイザー			立花 優	文学研究科修了	比較政治学
大塚 吉則	教育学研究院 教授	温泉気候医学	吉安 徹*	数理科学研究科**	幾何学
八若 保孝	歯学研究科 教授	小児・障害者歯科学	事務補助員	石手洗 千春	
喜多村 昇	理学研究院 教授	光化学	*2017年4月より着任 **東京大学大学院		

編集後記

スタッフの入れ替えによって数物系の色が強くなったLSOですが、今年度も精一杯、学修支援に取り組んで参ります。先日、昨年度よく質問しに来ていた学生(2年生)が、帰省のお土産にいろいろを持ってきてくれました。元は4個入りと思われるパッケージの中に残っていた2個のいろいろを取り出し、小豆か黒糖、どちらかどうぞ、と。そして足早に去って行きました。不思議と心地よい親しみを感じたのでした。彼は農学部に移行し好きな分野を学んでいるようで、何よりです。(浅賀圭祐)



ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 電話:011-706-7526 E-mail:lso@high.hokudai.ac.jp
北海道大学高等教育推進機構2階 URL:http://asc.high.hokudai.ac.jp/

次号は9月発行予定です